雨の日の唄

日向葵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨の日の唄

【Ｎコード】

Ｎ３３８８Ｍ

【作者名】

日向葵

【あらすじ】

雨のよく降る日に歌われた、甘い恋のメロディーをあなたに。

にわかに雨音が強くなり、彼の繊細な指が奏でるギターの音は、かき消されて届かない。

だけど、僕は知っている。

その音が誰を思って紡がれているのか、
その歌がどんなに甘く切なく歌われているのか。

彼の前に、たった一人の観客がいる。
淡いピンク色の傘をさして、その女性はただ黙って立っていた。
彼女の表情は傘にかくれてしまって、見ることはできない。
でも、彼女には聞こえているはずだ、
彼の心が詰まったこの歌を。

とびきり優しいメロディは、降りしきる雨にまじって悲しみを流しさり、
凍りついた心に温かな光を届ける。

傍らに咲いている紫陽花の葉が雨粒をたたえて、今にも零れ落ちそうにうなだれているのをみて、
僕は透明な傘の下から空を見上げた。
少し明るい空が遠くにみえたので、じきにこの雨もやむのだろう。
僕もそろそろ帰らなくちゃいけない。
その前にどうしても気になり、もう一度だけ振り返って2人をみつめた。

淡いピンクの傘が、重なった2人の姿を覆い隠す。
僕は少し安心して、家路を急ぐ。

叶うなら、もう少しだけこの雨のベールが、恋人たちを優しく包んでくれますように。

そう小さく祈りながら――。

（後書き）

雨の日にふと思いつきました。
一枚の絵のようなきれいな物語が作りたくて、出来上がった作品です。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能(たんのう)してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3388m/

雨の日の唄

2010年10月20日18時30分発行